

第2期中・長期経営計画

(令和6年度～令和12年度)



公益社団法人調布市スポーツ協会

公益社団法人調布市スポーツ協会
第2期中・長期経営計画
(令和6年4月1日～令和13年3月31日)

第1章 計画策定に当たって

- I はじめに～調布市スポーツ協会を取り巻く環境～・・・P 1
- II 第1期中・長期経営計画（平成26年度～令和5年度）を振り返って・・・P 2
- III 計画の基本的な考え方・・・P 2

第2章 事業展開

- I 誰もがスポーツに親しめる機会の創出・・・P 6
- II 次世代の育成・・・P 12
- III 東京2020大会等のレガシーを継承・発展させた共生社会の充実・・・P 15

第3章 計画の推進に必要な事項

- I 組織の充実と強化・・・P 17
- II 効率的・効果的な運営と財源の確保・・・P 18

第1章 計画策定に当たって

I はじめに～調布市スポーツ協会を取り巻く環境～

調布市スポーツ協会（旧調布市体育協会。以下「スポーツ協会」という。）は、昭和31年1月に調布市のスポーツの発展を願い発足しました。平成4年1月には加盟団体の総意により念願であった社団法人を取得し、平成24年3月には公益法人制度改革関連法の新たな適用のもと、公益社団法人として認定されました。

さらに、令和5年4月には教育的意味合いの強い「体育」という概念にとどまらず、その概念を包摂した「スポーツ」の振興が主流となっていることから、組織の名称を調布市スポーツ協会に改め、33加盟団体約1万人の会員の協力を得ながら、調布市のスポーツ振興に努めています。

平成26年度から令和5年度までの第1期中・長期経営計画の期間においては、平成26年度から受託したりフレッシュ体操スクールを市内全域で開催し、当初22クラスでの開催でしたが、現在では29クラスまで規模を拡充しました。

調布市総合体育館の指定管理者としてもこれまでの実績が評価され、平成31年度から10年間の指定期間となる4期目の指定をいただきました。

調布市民スポーツまつり、調布市民駅伝競走大会といった味の素スタジアムを活用した事業は、多くの企業・団体の協賛・協力のもと年々規模を拡大し、調布市民スポーツまつりに至っては、来場者2万人を超えるイベントに成長しました。

また、ラグビーワールドカップ2019TM日本大会及び東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が、立て続けに調布市内で開催されることが決定されたことを受け、各大会の機運醸成とレガシー創出のため、調布市や加盟団体を中心に連携を図り、多くの事業を展開してまいりました。

一方で、令和2年から世界的に広がりを見せた新型コロナウイルス感染症により、スポーツは「不要不急」のものであるかのごとく扱われ、スポーツ活動が制限をされたことで心身の健康への悪影響や、子どもの体力低下、地域交流がなくなることによる閉塞感、ストレスの増加など、この感染症は様々な影響をもたらしました。

しかし、こうした影響が表面化したことでスポーツが人々に与える価値の重要性が再認識され、スポーツによる健康の維持、増進のみならず、まちのにぎわいの創出や共生社会の実現など多様な分野において、スポーツの力が活用されることになりました。

こうした中、調布市においては、ラグビーワールドカップ2019TM日本大会及び東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として創出した有形・無形のレガシーの継承・発展に向け、ソフト・ハード両面での取り組みを展開しています。特に共生社会の充実においては、「パラハートちょうふ つなげよう、ひろげよう、共に生きるまち」を掲げ、多様な主体と連携を図り、取り組んでいます。

また、調布市が策定する調布市スポーツ推進計画も今回策定する第2期中・長期経営計画と同じく令和6年度から令和12年度までの7年間の計画となります。相互に連携を図ることで本計画の着実な実行と効果的・効率的なスポーツ振興につなげてまいります。

Ⅱ 第1期中・長期経営計画（平成26年度～令和5年度）を振り返って

1 ラグビーワールドカップ2019TM日本大会及び東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催

スポーツ協会では、ラグビーワールドカップ2019TM日本大会及び東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が、立て続けに開催されることが決定されたことを受け、各大会の機運醸成と有形・無形のレガシー創出のため、調布市及び加盟団体と連携を図りながら、様々な事業を展開してまいりました。

一方、共生社会の充実に向けては、福祉分野とスポーツ分野が中心となって組織する「調布市障害者スポーツの振興における協議体」に参画し、障害者スポーツの振興と理解、共生社会の充実に努めました。また、既存の調布市スポーツボランティア制度を再構築し、両大会のボランティアとして活躍した方を中心に登録いただく中で、スポーツを「ささえる」機会の拡充を図りました。

2 コロナ禍での各種事業の実施

平成26年度からリフレッシュ体操スクール事業を受託し、調布市総合体育館で実施しているセブンプログラムのノウハウを活かしながら、内容の充実と規模の拡充に努めてまいりました。また、調布市総合体育館の指定管理者としてもこれまでの実績が評価され、平成31年度から10年間の指定期間となる4期目の指定をいただきました。

しかし、令和2年から世界的に広がりを見せた新型コロナウイルス感染症の影響により、これまでの当たり前が一瞬で奪われ“新しい日常”におけるスポーツ活動が強いられることとなりました。

緊急事態宣言による臨時休館後も様々な制限がある中でしたが、調布市総合体育館は徹底した感染対策を講じた上で営業を再開しました。また、YouTubeを活用した動画配信を開始するなど、継続的なスポーツ活動の広報に努めました。

加盟団体主催の大会についても、スポーツ庁や各競技団体のガイドラインを遵守した上で可能な限り開催いたしました。このようなノウハウや困難を乗り越えた経験は今後の活動においての財産になりました。

Ⅲ 計画の基本的な考え方

1 調布市スポーツ協会ビジョン2030

「スポーツのチカラはみんなのものだ！」

～スポーツで豊かなまちづくりに貢献する～

このビジョンは、年齢や性別、障害の有無を問わず、誰もがいつでも、いつまでもスポーツに親しめる環境を創出し、スポーツを通じて豊かなまちづくりに貢献していくという私たちの強い意志の表れです。

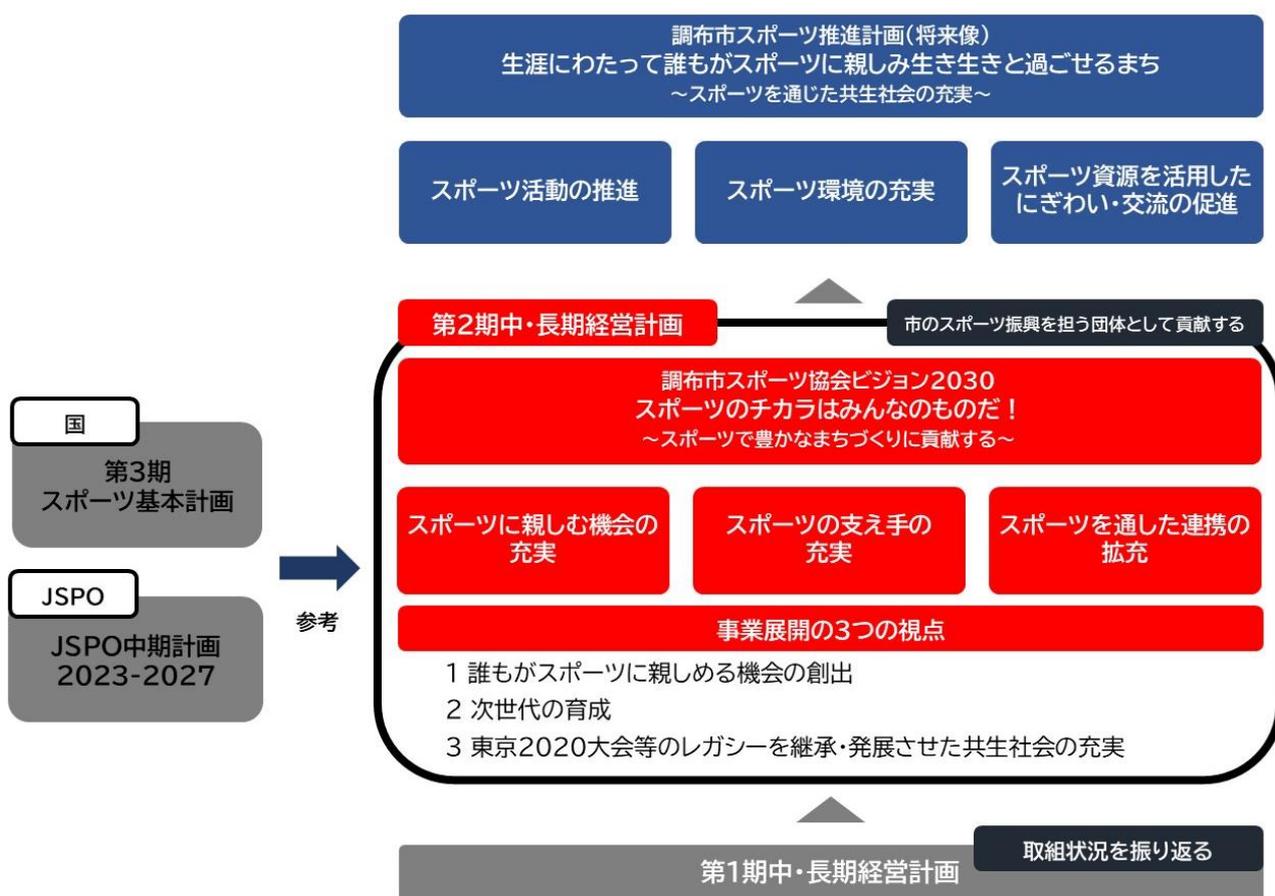
このビジョンを実現するためには、調布市スポーツ協会加盟団体、調布市スポーツボ

ランティア，調布市スポーツ指導員の継続的な成長・発展は不可欠です。本計画において，スポーツの支え手を充実させるとともに，他分野との連携を通じて，「する」「みる」「ささえる」の様々な観点から全ての人がスポーツに親しみ，スポーツの魅力を共有できる環境の充実を目指します。

2 策定の目的・位置付け

本計画は，調布市スポーツ協会ビジョン2030の実現に向けて，「スポーツに親しむ機会の充実」「スポーツの支え手の充実」「スポーツを通じた連携の拡充」の3つの目標を掲げ，スポーツ振興の実質的な担い手となる加盟団体とその活動をサポートする事務局の双方に対する基本的な考え方を示すものです。

計画策定に当たっては，市のスポーツ振興を担う団体として，調布市スポーツ推進計画で掲げている将来像に対する具体的な取り組みを示すとともに，「第1期中・長期経営計画（平成26年度から令和5年度）」の取り組み状況を踏まえ，スポーツ協会を取り巻く環境の変化や社会潮流など，現状や課題を把握しつつ，国のスポーツ基本計画，公益財団法人日本スポーツ協会の計画を参考にします。



※JSPO:公益財団法人日本スポーツ協会

3 計画の目標

本計画は調布市スポーツ協会ビジョン2030の実現に向けて、掲げた3つの目標に対して、以下の6つの項目をその成果指標として定めます。

スポーツに親しむ機会の充実

項目	令和4年度	令和9年度	令和12年度
スクール・イベント・大会等の年間参加者数	100,289人	20万人	23万人
調布市総合体育館の年間利用者数	122,771人	17万人	20万人

スポーツの支え手の充実

項目	令和4年度	令和9年度	令和12年度
加盟団体数及び会員数	加盟33団体 準加盟0団体 会員9,900人	加盟35団体 準加盟1団体 会員9,950人	加盟37団体 準加盟2団体 会員10,000人
スポーツボランティア登録者数及び年間活動数	64人 4件	80人 25件	100人 30件
スポーツ指導員登録者数及び年間活動数	34人 1件	50人 10件	80人 20件

スポーツを通じた連携の拡充

項目	令和4年度	令和9年度	令和12年度
連携団体数	80団体	100団体	130団体

※スポーツ協会が主催、協力もしくは後援する全ての事業の連携団体数(延べ)

4 計画期間

本計画の計画期間は、令和6年度から令和12年度までの7年間とします。また、令和10年度に調布市総合体育館の指定管理期間が満了となることから、前期5年、後期2年の計画期間とし、令和10年度に見直しを行います。



第2章 事業展開

本計画は、調布市スポーツ協会ビジョン2030の実現及び目標の達成に向け、3つの視点を軸に10個の取り組みの方向性を定めるとともに、スポーツを「する」「みる」「ささえる」の関わり方から捉え、誰もがスポーツに親しめる事業を展開します。

また、令和12年（2030年）はSDGs[※]の目標年度であります。3つの視点がSDGsのどの項目に関連するのかわを示し、スポーツを通じたより良い社会の実現とSDGsの達成に貢献します。

事業展開の体系図

3つ視点	取り組みの方向性
誰もがスポーツに親しめる機会の創出	日常的にスポーツに親しむ機会の確保
	スポーツイベントの拡充
	働く世代、子育て世代、スポーツ無関心層の運動機会の創出
	調布市スポーツボランティアの育成・普及
	スポーツ情報の発信
次世代の育成	子どもの運動・スポーツ機会の確保と体力向上
	競技力の向上
	調布市スポーツ指導員の育成・普及
東京2020大会等のレガシーを継承・発展させた共生社会の充実	障害等の有無を問わずスポーツに親しむことができる環境の創出
	多様な主体との連携によるスポーツの価値の向上

※Sustainable Development Goals の略。国連サミットで採択された持続可能な17の開発目標。

I 誰もがスポーツに親しめる機会の創出

誰もがスポーツに親しめる機会の創出

スポーツを「始めたい」「楽しみたい」「上達したい」との観点から、誰もがスポーツに親しむ機会を創出し、スポーツ人口の裾野を拡大する中で、持続可能なスポーツ振興を目指します。

【関連するSDGs】



取り組みの方向性	関わり方		
	する	みる	ささえる
日常的にスポーツに親しむ機会の確保 ・リフレッシュ体操スクール ・みんなでスポーツ事業 ・加盟団体主催大会・教室・講習会 ・スポーツ協会セブンプログラム ・シニアスポーツ振興事業	○		
スポーツイベントの拡充 ・市民駅伝競走大会 ・市民スポーツまつり ・市民スポーツ大会(旧市民体育祭) ・調布フットサル大会	○	○	○
働く世代、子育て世代、スポーツ無関心層の運動機会の創出 ・まちなかスポーツパーク ・保育園等への出前事業	○	○	
調布市スポーツボランティアの育成・普及 ・スポーツボランティアの登録・派遣 ・スポーツボランティア講習会			○
スポーツ情報の発信 ・ホームページ・SNS・メールマガジン等による情報発信 ・YouTubeを活用した動画配信		○	

1 日常的にスポーツに親しむ機会の確保

(1) リフレッシュ体操スクール

現状

日頃運動をする機会が少ない方への運動のきっかけづくりとして、市内8会場で実施しています。参加者の約8割はリピーターとなっており、市民の定期的な運動機会の提供の場となっています。

方針

運動を始めたい方や運動する機会が少ない方へ向けたプログラムを継続するとともに、自宅のできる運動や他の施設で行っている体操教室などに関する情報提供の充実を図り、参加者の運動習慣の定着を目指します。

(2) みんなでスポーツ事業

現状

市内の民間及び公共施設を利用してジュニアサッカー教室、初心者弓道スクールの他、高尾山を中心としたハイキングを実施しています。

方針

総合体育館で実施しているスポーツ協会セブンプログラムのノウハウを活かし、プログラムの拡充を図ります。新規プログラム実施に当たっては民間企業と積極的な連携を図り、様々な市民のニーズに応じたプログラムの充実を図ります。

(3) 加盟団体主催大会・教室・講習会

現状

加盟団体が市内のスポーツ施設又は学校施設を利用し、普及を目的とした教室や講習会の他、会員のスキルアップを目指した教室、審判講習会、大会などを年間通して実施しています。

方針

競技を始めたい、大会へ参加したい誰もが参加できる環境を創出するとともに、内容や開催日時などの情報の充実を図ります。また、会員の競技力の向上のみならず、大会運営に必要な審判講習会も継続して実施します。

(4) スポーツ協会セブンプログラム

現状

総合体育館の指定管理者として「健康増進プログラム」「ジュニアスポーツプログラム」「スキルアッププログラム」「障害者プログラム」「指導者養成プログラム」「インフォメーションプログラム」「地域コミュニティプログラム」の7つのプログラムを展開し、日常的にスポーツに親しめる場を提供しています。

方針

自分に合ったスポーツに親しめる場として継続して取り組みます。また、アンケートなどによりニーズを的確に把握し、既存の利用者の満足度を向上させるとともに、新規利用者の増加を目指します。

(5) シニアスポーツ振興事業

現状

高齢者のスポーツ実施率の向上を図り、高齢者の健康維持・増進を目的として主な参加対象者を60歳以上とした大会・交流会などを（公財）東京都スポーツ協会からの補助金で実施しています。令和5年度は6競技実施しており、各事業の実施に当たっては、加盟団体が主体となって実施しています。

方針

60歳以上の会員が増加している加盟団体が多くあるため、今後、実施を希望する団体が増えることが想定されます。高齢者のスポーツを通じた地域での交流を支えていくため、継続して実施します。

2 スポーツイベントの拡充

(1) 市民駅伝競走大会

現状

調布市の冬の風物詩として、味の素スタジアム及び都立武蔵野の森公園を会場に実施しています。地元や職場の仲間での参加が多く、スポーツを通じた地域での交流の場として、毎年多くの市民が参加しています。

方針

参加者ニーズを把握し、誰もが楽しめる大会として参加者満足度を向上させるとともに、多様な主体と連携を図り、スポーツを通して地域の活性化に貢献できるイベントを目指します。

(2) 市民スポーツまつり

現状

味の素スタジアム及び周辺施設で様々なスポーツアトラクションを展開し、幅広い年齢層の市民にスポーツに触れる機会を提供するイベントとして実施しています。

方針

誰もがスポーツやレクリエーションに親しめるイベントとして、内容の充実を図ります。また、多様な主体と連携することで、会場周辺だけでなく、スポーツを通して市内全体を盛り上げるイベントへの発展を目指します。

(3) 市民スポーツ大会

現状

市民の体力向上とスポーツを通じた地域での交流を目的として、加盟団体が主管となり夏季・秋季・冬季大会の30競技を実施しています。

方針

誰もが参加しやすい競技会として、今後も継続的に発展していくために、競技や種目の他、申込方法や運営方法など、主管となる加盟団体と協議、検討します。

(4) 調布フットサル大会

現状

サッカーのまち調布を盛り上げる大会として、FC東京及び味の素スタジアム周辺施設の協力のもとサッカー及びフットサルの普及を目指し、実施しています。

方針

大会発足時とは調布市のサッカー及びフットサルを取り巻く環境が大きく変わりましたが、参加者ニーズを的確に把握し、誰もが楽しめる大会として事業の継続的な発展を図ります。

3 働く世代、子育て世代、スポーツ無関心層の運動機会の創出

(1) まちなかスポーツパーク【新規】

方針

スポーツに関心がない方にもスポーツに親しむ場を提供することを目的として、駅前や市役所前庭など、人通りが多い場所で気軽にスポーツを体験できるイベントを開催します。

(2) 保育園等への出前事業【新規】

方針

日頃運動をする機会が少ない、働く世代へスポーツを始める機会を提供することを目的として、保育園などで保護者を対象としたエクササイズやスポーツ体験会を開催します。

4 調布市スポーツボランティアの育成・普及

(1) スポーツボランティア登録・派遣

現状

スポーツ協会が主催する事業の他、市内で開催されるスポーツイベントの運営スタッフとして、活動しています。

方針

調布市スポーツボランティア制度の周知と新たな活動機会の創出に向けた取り組みを継続的に行い、ボランティア活動を活性化することで、登録者のモチベーションの維持、向上につなげ、スポーツを「ささえる」環境の充実を目指します。

(2) スポーツボランティア講習会【新規】

方針

ボランティア活動に対する知識の理解を深めるとともに、現場を想定した実技研修を交え、調布市におけるスポーツボランティアの育成とボランティア活動への参加意欲向上を図ります。

5 スポーツ情報の発信

(1) ホームページ・SNS・メールマガジン等による情報発信

現状

スポーツ協会ホームページを中心にメールマガジンやSNSを活用してイベントやプログラム、調布市総合体育館の情報の他、加盟団体が実施している大会の情報などを発信しています。

方針

スポーツに関心のある市民が必要とする情報を的確に得られるよう発信します。内容の充実に努めるとともに、情報格差が生じることがないように発信の手段についても適宜、検討・見直しを行います。

(2) YouTubeを活用した動画配信

現状

調布市スポーツ協会のチャンネルを開設し、「自宅でできるかんたんエクササイズ」を公開することで自宅でも運動ができる機会を提供しています。また、市民スポーツ大会、市民スポーツまつり、市民駅伝競走大会などの事業のPR動画

の配信も実施しています。

方針

今後も継続して「自宅でできるかんたんエクササイズ」を更新するとともに、市民への運動機会の提供と運動の習慣化を目指し、調布市スポーツ協会のチャンネルの周知を図ります。

II 次世代の育成

次世代の育成

次世代を担う子ども達がスポーツに親しむ機会を確保し、体力の向上と心身の健やかな成長につなげるとともに、調布市出身のアスリートの発掘・育成の充実を図ります。

【関連するSDGs】



取り組みの方向性	関わり方		
	する	みる	ささえる
子どもの運動・スポーツ機会の確保と体力向上 ・CHOFUドリームプロジェクト ・ジュニア育成地域推進事業 ・調布市ジュニア陸上体験教室 ・部活動地域連携に関すること	○	○	
競技力の向上 ・上部団体及び上部競技団体主催事業(選手派遣) ・アスリート及び障害者アスリート支援事業(助成金・報奨金)	○		
調布市スポーツ指導員の育成・普及 ・スポーツ指導員登録・派遣及び紹介 ・スポーツ指導員講習会			○

1 子どもの運動・スポーツ機会の確保と体力向上

(1) CHOFUドリームプロジェクト

現状

誰もが知るトップアスリートをゲストに招き、子ども達がトップアスリートとの交流を通して、夢や目標を持ち、スポーツを始めるきっかけやスポーツ活動の継続につながることを目的に、様々なスポーツの体験教室を実施しています。

方針

子ども達の体力と運動能力の向上、運動習慣の定着を目指し、継続して実施します。また、競技を初めて体験した子どもへ活動場所やチームの紹介などの情報提供を行うことで、スポーツを継続しやすい環境を創出します。

(2) ジュニア育成地域推進事業

現状

ジュニアスポーツの普及とジュニア選手の発掘・強化を目的としたスクール・練習会・交流大会などを東京都スポーツ協会からの補助金で実施しています。令和6年度は12競技実施しており、各事業の実施に当たっては、加盟団体が主体

となって実施しています。

方針

ジュニア世代のスポーツの裾野を広げるとともに、競技力向上を目指し、加盟団体と連携を図りながら、継続して実施します。

(3) 調布市ジュニア陸上体験教室

現状

調布市及び調布市教育委員会と連携し、陸上競技に精通した指導者による「走り方」の指導を行い、スポーツへの関心を高めるとともに、子ども達の体力向上を目的として、実施しています。

方針

全ての運動の基本となる「走り方」を通して、子どものスポーツの普及・育成、競技力の向上を目指し、調布市及び調布市教育委員会と連携し、継続的に取り組みます。

(4) 部活動の地域連携に関すること【新規】

方針

スポーツ庁のガイドラインなどを踏まえ、調布市及び調布市教育委員会と連携しながら、必要に応じて、対応を検討し、取り組みます。

2 競技力の向上

(1) 上部団体及び上部競技団体主催事業（選手派遣）

現状

東京都スポーツ大会及び東京都市町村総合スポーツ大会など、上部団体が主催する大会へ調布市代表選手として選手を派遣し、派遣費を交付しています。

また、上部競技団体が主催する大会などへも選手を派遣することで、市内の競技力向上に努めています。

方針

上部団体及び上部競技団体の大会へ積極的に参加を促すことで、市内の競技力向上につなげます。

(2) アスリート及び障害者アスリート支援事業（助成金・報奨金）

現状

全国大会などへ調布市の代表として出場する選手へ交通費・宿泊費の補助として助成金を、上位入賞者へは報奨金を交付しています。

方針

本制度の周知を図り、上部団体及び上部競技団体の大会へ積極的に参加を促すことで、市内の競技力向上につなげます。

3 調布市スポーツ指導員の育成・普及

(1) スポーツ指導員登録・派遣及び紹介

現状

スポーツ協会が主催する事業の他、市内のサークルへの派遣・紹介を行っています。

方針

学校部活動の地域連携・地域移行に向けて、スポーツ指導員の活躍が期待されます。調布市スポーツ指導員バンクの周知と活動機会に向けた取り組みを継続的にを行い、スポーツ指導員の資質向上を図ります。

(2) スポーツ指導員講習会

現状

熱中症予防講習会や上級救命講習会の他、スポーツテーピングの講習会を定期的に実施しています。

方針

スポーツ指導に関する基本的な知識の習得、指導力の向上を図るとともに、資格取得に向けた支援や情報提供を行い、指導者の育成に取り組みます。

Ⅲ 東京2020大会等のレガシーを継承・発展させた共生社会の充実

東京2020大会等のレガシーを継承・発展させた共生社会の充実

多様な主体との連携を図り、スポーツの価値を高め、共生社会の充実、スポーツを通じた地域の活性化を図ることで、市民の交流を促進します。

【関連するSDGs】



取り組みの方向性	関わり方		
	する	みる	ささえる
障害等の有無を問わずスポーツに親しむことができる環境の創出 ・障害者スポーツ事業 ・スポーツセミナー	○	○	○
多様な主体との連携によるスポーツの価値の向上 ・(公財)東京都スポーツ協会・東京都市町村スポーツ協会連合会との連携 ・プロスポーツチーム・民間企業との連携 ・他分野団体との連携	○	○	○

1 障害等の有無を問わずスポーツに親しむことができる環境の創出

(1) 障害者スポーツ事業

現状

障害者の運動習慣の定着、総合体育館における障害者の日常的な利用者数の増加を目指し、市内の福祉作業所通所者を対象にプログラムを実施しています。

方針

福祉作業所以外の団体へ運動機会の提供とプログラムを通して、総合体育館の個人利用の定着に向けて取り組みます。

(2) スポーツセミナー

現状

加盟団体及びスポーツ指導員を対象にスポーツ医科学やスポーツ指導に関する暴力やハラスメントに関する講習会を定期的実施しています。

方針

スポーツが社会に与える役割や近年のスポーツを取り巻く環境の変化など、スポーツに関するトレンドを抑えた内容で幅広く実施します。

2 多様な主体との連携によるスポーツの価値の向上

(1) (公財) 東京都スポーツ協会・東京都市町村スポーツ協会連合会との連携

現状

代表者会議や評議委員会、研修会などに参加し、東京都のスポーツ（体育）協会の現状と課題の把握及び情報共有をしています。

方針

今後も継続的に参加し、加盟団体としての責務を果たします。

(2) トップスポーツチーム・民間企業との連携

現状

調布市と協定を結んでいるトップスポーツチームと連携し、体験会の開催や市民スポーツ大会開会式の動画へ選手に出演いただいています。また、民間スポーツ施設を活用したスクールの開催、スポーツクラブメガロスに加盟団体会員が法人会員として利用できるよう連携しています。

方針

トップスポーツチーム及び民間企業との連携を継続して行い、トップアスリーの魅力を市民へ伝えるとともに、民間企業と連携した体験会を開催するなど、スポーツに親しめる機会の充実を図ります

(3) 他分野団体との連携

現状

市民スポーツまつりの開催に当たっては、スポーツ団体のみならず、他分野と連携を図ることで相乗効果を得ることができました。障害者スポーツ事業の実施に当たっては、スポーツ・福祉・医療の分野で連携を図り、障害者の運動習慣の定着に向けて取り組んでいます。

方針

調布市アクション&レガシープランで掲げられたテーマを参考に他分野との連携を積極的に行うとともに、スポーツを中心とした取り組みを行い、各分野の相乗効果につなげます。

第3章 計画の推進に必要な事項

I 組織の充実と強化

1 人材の確保

平成28年度から現在の事務局体制が続いています。様々な要因や職員の年齢を踏まえ、硬直化した組織とならないために、市からの新たな事業や施設管理などの受託を検討し、事務局職員の計画的な採用、業務のローテーションなどを含め、具体的な計画を立案し、市に提案していきます。

- (1) 事業・組織の継続性を担保した職員採用計画の立案
- (2) 事務局体制、職員配置ローテーション制度の作成

2 定期的な職員研修の実施、講習会等への参加

スポーツ協会職員には、体育施設の管理運営面、市民スポーツの振興、スポーツを通じた健康づくり等の分野のスキルアップが求められます。事業等の企画立案から実施、そして評価といったマネジメント能力の強化に加え、公益法人に勤める者として組織全体の成長と発展を支えるために、定期的な職員研修の実施及び講習会等を受講することで、職員のスキルや知識、モチベーションを向上させ、最新のトレンドや社会の変化に適応する能力の向上により、組織の目標達成につなげます。

- (1) 取得推奨資格リストの作成
- (2) 職員有資格一覧の作成

3 人事評価制度の導入

これからのスポーツ協会職員には、市民のスポーツ振興や健康づくりの分野での専門知識を備えていることはもちろんのこと、企画立案・実施・評価といったマネジメント能力に加え、公益法人に勤める者としての高い倫理観及び責任感が強く求められています。

一方、スポーツ協会には、職員一人ひとりが生きがいを持ち、生き活きと働き続けられる職場環境を整備するとともに、職員育成のための研修制度の充実や業務遂行の姿勢及び実績等を適正に評価した上での人事制度が必要となります。

人事評価制度の導入には各職員の目標を明確化することで、モチベーションの向上や成果の可視化ができるメリットがある反面、制度導入を検討する時間や予算の確保が必要となりますが、組織と職員の発展の両立を図るため、人事評価制度の導入を検討してまいります。

4 スポーツ・インテグリティ（誠実性・健全性・高潔性）の確保・強化

スポーツ団体は、社会に対しスポーツの健全性や価値を提供する使命を担っています。そのため、スポーツ・インテグリティの確保と強化はスポーツ活動の基盤となります。スポーツの誠実さや公正性を守り、スポーツの価値維持に努め、スポーツが持っている

本来の力を損なうことがないよう様々な視点から取り組みます。

- (1) 適切な公益法人運営
- (2) ガバナンス向上
- (3) スポーツ・インテグリティに関する講習会等の実施

5 加盟団体の拡充と育成

調布市内のスポーツ振興を進めていく上で、加盟団体の力は必要不可欠であり、加盟団体の会員数が減少傾向となっている中で、現加盟団体の持続可能な運営と新規団体の入会の双方を取り組んでまいります。

- (1) 既存の団体へ向けた取り組み
 - ア 助成金等の交付
 - イ 加盟団体向けの講習会等
 - ウ 各種表彰事業
 - エ 活動場所の確保
 - オ 事務作業の負担軽減
 - カ 会員増加に向けた取り組み
- (2) 新規競技団体の入会
 - ア 入会ルールの整理
 - イ 準加盟団体や育成団体制度導入の検討
 - ウ 市内の競技団体の情報収集

II 効率的・効果的な運営と財源の確保

1 PDC Aマネジメントサイクルによる運営と業務の効率化

常に変化する社会情勢やスポーツを取り巻く環境の中で、本計画を推進するに当たってはPDC Aマネジメントサイクルを活用し、取り組みや成果等を振り返り、その成果を踏まえた見直し、改善を随時、図ってまいります。

各年度の事業計画を立てる際には目標を明確に定義し、具体的な戦略や計画を策定した上で、各種委員会、理事会等で検証することにより本計画の実効性を高めてまいります。

また、各種事業実施に当たっては、担当者による事業計画・報告の作成はもちろんのこと、参加者アンケートだけでなく、職員及び事業に協力いただいた協力員からの意見等も把握することで、常に質の高い事業の提供に努めてまいります。

各担当者の業務に当たっては、これまで積み重ねてきたノウハウを活かし、調布市スポーツ協会ビジョン2030の実現に向けて自分に何ができるのかを常に考え、主体性を持って取り組むとともに、適切なテクノロジーや自動化ツールなどを活用するなど、業務のスリム化、効率化もあわせて進めてまいります。

- (1) PDC Aマネジメントサイクルシートによる進捗管理
- (2) 業務のアウトソーシングによる効率化、マニュアル化

2 予算の効率的・効果的な活用

物価上昇などにより、社会経済情勢が厳しさを増す中、効率的・効果的な経営管理が必要となります。

業務全体の見直し、業務のスリム化を進める中、的確な収入計画、目標設定と目標管理、適正な受益者負担額の設定など、中長期的な予算計画を策定します。

- (1) 優先順位を明確にした計画と目標設定
- (2) 収益の再投資
- (3) テクノロジー等の導入による持続可能な予算管理

3 助成金・寄附金等の獲得

収入の基盤となる会費収入に加え、各種助成金、賛助寄附金、企業協賛金の獲得や適正な受益者負担など、市補助金以外の財源確保に取り組みます。

- (1) スポンサーの獲得
- (2) 助成金の活用
- (3) 寄附金の獲得

公益社団法人調布市スポーツ協会 第2期中・長期経営計画

令和6年3月発行

発行 公益社団法人調布市スポーツ協会

〒182-0011

東京都調布市深大寺北町2-1-65 調布市総合体育館内

Tel 042-481-6221 Fax 042-481-6226

<https://www.chofucity-sports.or.jp>